

(法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の事業報告書」)

## 令和 6 年度事業報告書

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

### 1 事業実施の実績

#### ① 自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進

- ・ コロナ以前の状況に戻り、各種行事も通常の運営になってきた。
- ・ 恒例の干潟観察会は春夏合わせて 300 名近い参加者が集まった。前年度に比べると参加者は若干減っているが、1 回の参加者数 150 名程度が運営上は妥当ではないかと考える。
- ・ 3 年前からはじめた 7 月 1 日の中津干潟の日記念行事は、25 周年記念事業として、小幡記念図書館アールスペースにおける写真展、図書館研修室での映像展、リルドリームでは「豊かな自然を未来につなぐⅡ」と題して、水辺に遊ぶ会 25 年をふりかえるイベントを開催した。催しのサブテーマを、「ラムサール条約や自然共生サイト指定で地域の未来を明るく照らす」として話題の中心とした。私たちが暮らす自然環境を保全することで、経済活動を含む様々な利点があることを一緒に学ぶことを目指した。
- ・ SAVEJAPAN プロジェクトの助成をいただき、環境省の自然共生サイト申請に関連するベッコウトンボ観察会、春の干潟観察会、アカテガニ産卵観察会、中津干潟のおせったい、中津干潟アカデミア研究発表会を実施した。
- ・ 第 8 回中津の海の絵コンテストは昨年よりも応募数が減ったものの 750 名の応募があった。3 月の TOTOT リモデルフェアにおいて入賞作品とポスターの展示を行った。
- ・ 第 8 回「中津干潟アカデミア・研究発表会」は、会場での開催と YouTube を利用したネット中継も合わせて行った。内容としては、自然共生地域を問うをテーマにトークセッション形式で意見交換を行った。昨年に続き高校生の発表参加があり、今後も継続することを期待している。
- ・ 主に小学校での環境学習、観察会は会所属の環境教育アドバイザーが 4 名体制となり、中津市内の小学校での回数が増えた。また、県内の遠方の小学校や高等学校からの依頼が増えた。これまでの福岡県京築地区に加え、豊後大野市や臼杵市の学校からの依頼があった。
- ・ 河川協力団体として、出前授業、山国川おサカナ観察会などを実施した。
- ・ 市内の放課後こども教室からの依頼に加え、市外の博物館や公民館、放課後こども教

室などから依頼が増えた。

- ・ テレビ・ラジオ・新聞などへの取材協力を行った。NOASFM、朝日新聞、西日本新聞、読売新聞、大分合同新聞、OBS、大阪朝日放送、NHK、ケーブルテレビ等から取材を受け広報につながる成果を残した。大分県の斡旋で海外プレス取材を受け、海外でも中津干潟が紹介された。
- ・ 第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～に実行委員として関わり、協賛行事を行ったり、式典でメッセージ発表をする機会を得たり、大分会場・中津会場でワークショップなどを開催した。

## ② 調査研究活動

- ・ 中津市より中津干潟及び野依新池の調査委託があった。干潟の調査では、ドローンによる調査をもとにカブトガニの新産卵地を続々と発見することができた。さらに掘削調査により多くの産卵が確認された。シギ・チドリ類調査では、全体的な数の減少が心配される。日本国内全体でも減少傾向にあるようだ。引き続き調査をしていく必要性を感じた。野依新池及び干潟保全の提言書をまとめ、市に提出した。
- ・ カブトガニ関連の調査は、例年同様に産卵、幼生の個体数、混獲された成体などについて調べた。今期も概ね例年通りの結果となった。
- ・ 中津干潟の調査は、NPO 法人南港ウェットランドグループをはじめ、協力者のおかげで、相対的にも中津干潟の重要性がますます高まってきたことが示された。昨年度10年ぶりに作成・配布した「中津干潟レポート 2023」は中津干潟の生物相の基礎情報となるもので、自然共生サイト申請などでも役立ち、今後も様々な場面での利活用が期待される。
- ・ 野依新池の調査では、トンボ類を中心に植物、水生生物などについて行った。水深ロガーのデータが役立ち、発生数との相関についても様々なことがわかってきた。
- ・ 水産大学校、日本文理大学、群馬大学など複数の大学の調査に協力すると同時に、当会の調査活動にも一部協力いただいた。
- ・ JEAN の海ごみ調査に加え、全国川ごみネットワークの調査にも参加するようになった。

## ③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動

- ・ 海岸清掃の参加人数は、コロナ禍以前に戻り、5月・9月・12月に大新田、3月に三百間で実施できた。参加者が楽しめるような工夫を行ない、動員数を増やしたいと考えているが、伸び悩んでいる実態がある。松林景観再生活動についても、当日会場にて参加者を募る方法を取り、毎回10名程度の人員を確保している。全体の動員数を増やしつつ、松林作業の参加人数を確保する工夫が必要である。どのように確保するかの課題が残されている。
- ・ 2023年度から蛸瀬川のゴミ問題に取り組み、地元、県土木事務所とゴミ回収の方法などについて対話を重ねることを継続し、地元のリバークリーンに参加した。また

会員 1 名が年間を通して主に左岸側のプラスチックゴミを回収した。

- ・ 県立工科短期大学はビーチクリーンを計画したが悪天候のため、講話のみの実施となった。また、城北中学校は全校生徒が参加し三百間浜でビーチクリーンを行った。城北中は 2 年生のみ三百間海岸ビーチクリーンを 2 度行なった。小楠小学校 4 年生が今年もビーチクリーンと松林整備を行った。豊田小学校 6 年生も同じくビーチクリーンと松林整備を行った。特に地元の小楠小学校は保護者とのふれあい活動を合わせて行ったことで多くの人が大新田に足を運んでくれた。
- ・ 毎月第一土曜日にプチビーチクリーンを実施するようになった。海ごみやボランティア清掃に興味のある方へのフォローアップを行っている。じっくり海ごみや自然についての話が聴けるということで参加者には好評である。毎回 10 名程度の参加となっている。婦人会やガールスカウトといった団体から思わぬ反響があり、今後も継続して行っていきたい。

#### ④ ブルートーリズムなどの地域振興を推進する活動

- ・ アカニシ染め刺繍のワークショップを 8 月にひがたらぼで開催した。公表後、すぐに定員に達する人気ワークショップではあるが、アカニシが安定的に調達できるのであれば、本来の染色ワークショップを春から初夏の定番行事とできないかと考える。
- ・ 新たな試みとして、11 月に中津市お魚感謝デー（豊かな海づくり大会中津サテライト会場）にて海苔漉き体験を行ったが、天候も悪く、解凍した海苔の状態も本来の品質ではなかったため、海苔を漉く体験のみで終わった。
- ・ 3 月の海苔すき体験のワークショップは、悪天候の予報であったことから、漁協の協力をいただき小祝荷さばき場で行った。午後までに海苔が乾くまでには至らなかったが、持ち帰った海苔を家庭で干した参加者はおいしかったとコメントをくれた。イベントの中で来年も継続したいと漁師さんの方から声があがった。

#### ⑤ 自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信

- ・ ガタガタ通信は予定通り年 4 回発行した。郵便料金の値上げがあり、通信運搬費が膨大となっていることからネットによる配信も検討している。
- ・ HP のアクセス数は昨年の 36,000 件から 36,227 件と微増となった。さらなる増加を目指して SNS の活用、HP をスマートフォン向けに改装することも検討中である。
- ・ 正会員向けメルマガ「ガタガタマガジン」の配信は、正会員が業務の内容を知ることができると好評である。要望に応じて今後も週一くらいのペースで配信していきたい。一般会員向けのメールマガジンの発行も検討していきたい。
- ・ 環境保全や NP0 経営など各種の勉強会に 20 回ほど出席し、地域のオピニオンとしての役割を果たすため情報収集活動を行った。
- ・ 7 月に創立 25 周年に関わる講演会 & トークショーを開催した。これまでにお付き合い

のあった人たちにご登場いただいて、はじまり、いま、これからについて対話形式で語り合った。会場には、チラシを見て参加した一般市民のほか、行政担当者や議員の参加も多く、中津干潟の素晴らしさについて、広報することができた。

- ・ 2030 年までに海と陸地の 30%を保護区にするという 30by30 に合わせ、2023 年から進められている自然共生サイト（OECM）の申請を前後期とも行った。2024 年度前期「尾無の湿地」、後期「中津干潟舞手川河口湿地」が認定された。

#### ⑥ 民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など

- ・ 舞手川河口で実施している養浜の試みが効果を上げている。養浜に関わった宇多先生が久々に中津を訪れ、現地を視察した。自然共生サイトに認定されたこともあり、今後も調査、モニタリングを継続したい。
- ・ 生物多様性おおいた県戦略策定会議、中津市環境審議会、グリーンアップ大分県民会議など行政の設置する会議への参加、提言等を継続的に行っている。
- ・ 野依新池に関連して、昨年度も、植野池の周辺環境改変が懸念される事象があり、引き続き注視する必要がある。今後も県・市の担当部署と連絡調整しながら保全を進めていきたい。懸案である行政と地元と保全団体で構成される協議会の立ち上げを市に提言しているが、令和6年度も実現していない。ベッコウトンボは、中津市の天然記念物の種指定が実現し、今後は県の天然記念物の指定などを目指して活動したいと考える。
- ・ マスコミ取材、情報提供なども適宜実施した。
- ・ この他にも大学の研究支援、協働、民間調査協力、情報提供など。
- ・ 行政関係者に適宜、情報提供、提言、協力なども実施した。

#### ⑦ 持続可能な社会を追究するためのその他の活動

- ・ 組織基盤強化及び持続的な経営の確立を目指して徐々に分散化をすすめている。理事による定期的な情報交換、正会員・会員の交流を目指したメンバーズデイなども行ってきた。今後も管理業務及び事業実施業務の分散化、組織の高齢化、関係者のスキル不足、若手の担い手不足などの課題を一つ一つ解決していきたい。
- ・ 上記の問題に対応して、事業マニュアルの作成を続けている。主な事業及び管理業務を皮切りに、業務内容のパッケージ化を引き続き目指したい。
- ・ 経営ガバナンスは、当会にとって必須のものであり、理事、正会員がその意義を深く理解しておく必要がある。同時に、資金調達、文書管理、監査体制の確立を目指す。
- ・ 「ひがたらぼ」が設置されて9年が過ぎたが、各所に老朽化が目立つようになってきた。適宜補修をいれながら運用している。しっかりとした建造物に更新するために、新たな土地の確保、資金調達など課題は多いが、子どもたちの学習支援や社会教育、研究の拠点を維持発展していくため取り組んでいきたい。

#### ⑧その他

- ・ 経営面では、今年も会員皆様のご協力で無事乗り切ることができ、繰越金も若干残すことができた。繰越金の残高は 700 万円をこえているが、ネイチャーセンターの設立を視野に入れると、経営的には安定した状況とはいいがたい。引き続き、財源の確保が課題である。
- ・ 経営の効率化、分業の推進、ガバナンスの確立など課題はあるが、今後進めていかなければならない。メンバーと意見交換を行いながら進めていきたいが、理念の共有が重要である。適宜学びの場・会員相互の交流の場をつくっていきたい。
- ・ 長い間、水辺に遊ぶ会のイベント用物品の管理場所、あるいは大学生の宿泊先として利用してきた小祝研究所であるが、新たな場所に移転を考えている。

令和6年度事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係わる事業

定款の事業名							
事業内容		実施月日	実施場所	従事者の 人数	受益対象 者の範囲	受益対象 者の人数	支出額 (円)
① 自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進							
自然観察会	ベッコウトンボ観察会	4/28	野依新池	12名	市民他	21名	3,277,600
	春の干潟観察会	5/5	大新田	13名	市民他	150名	
	ベントス観察会	8/3	東浜	6名	市民他	7名	
	アカテガニ観察会	8/3	大新田	14名	市民他	25名	
	山国川おサカナ観察会	8/11	スポーツ公園	10名	市民他	34名	
	秋の干潟観察会	9/29	大新田	12名	市民他	119名	
	スズガロカモと冬鳥観察会	12/8	東浜	12名	市民他	4名	
その他の行事	中津干潟の日写真展	6/26、7/1	市立図書館	2名	市民他	不特定	
	写真・映像展	6/30	市立図書館	10名	市民他	50名	
	中津干潟の日の集い	7/7	リル・ドリーム	17名	市民他	50名	
	こどもアカデミア	8/17	今津コミュ	14名	市民他	85名	
	中津干潟のおせったい	9/22	大新田	12名	市民他	10名	
	海の絵コンテスト	夏休み	中津市内	4名	児童	750名	
	夏休みWS	夏休み	ひがたらぼ	17名	市民他	29名	
保育園での環境学習指導		2回	中津市	17名	園児	60名	
小学校での環境学習指導		33回	中津市・外	100名	児童	1437名	
中学校での環境学習指導		5回	中津市	6名	生徒	931名	
高等学校での講師		5回	中津市	2名	生徒	70名	
短大・大学の環境学習講師		3回	中津市・外	3名	学生	160名	
社会教育の場などでの講師		4回	中津市・外	4名	市民他	100名	
企業・その他団体他での講師		9回	中津市・外	35名	児童・市民他	196名	
中津干潟NETアカデミア		12/22	今津コミュ	16名	市民他	不特定	
児童向け海ごみ学習用冊子編集		3月	大分県内	1名	児童・県民他	不特定	
マスコミ対応		15回	中津市	27名	市民他	不特定	
② 調査研究活動							
生物調査(カブトガニ)		19回	中津干潟	63名	市民他	不特定	1,223,473
生物調査(シギチドリ類他)		25回	中津干潟	55名	市民他	不特定	
生物調査(ベッコウトンボ・生息地)		14回	野依地区他	16名	市民他	不特定	
その他(アライグマ・コアマモ・ベントス)		9回	中津干潟	15名	市民他	不特定	
他機関との協働(水産大学校・日本文理大 ・群馬大・熊本大・大分大・日本大・富山大・九州大・ 高知大・タゴール記念国際大学など)		21回	中津干潟他	33名	大学他	50名	
③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動							
ビーチクリーン (漂着物調査)	大新田海岸	5/19・9/15・12/8	大新田	40名	市民他	436名	359,956
	三百間海岸	3/9	三百間	14名	市民他	122名	
	漂着物調査	1回	大新田	5名	市民他	不特定	
	学生への指導	5回	大新田他	10名	児童・生徒他	600名	
	プチビーチクリーン	11回	東浜	67名	市民他	30名	
松林景観再生	一般参加作業	5/19・9/15・12/8	大新田	3名	市民他	30名	
	専門作業	6回	大新田	6名	市民他	不特定	
	児童・学生への指導	2回	大新田他	6名	児童・学生他	140名	
リパークリーン	蛸瀬川	通年	蛸瀬川	15名	市民他	不特定	

④ ブルーツーリズムなどの地域振興を推進する活動						
帝王紫刺繍ワークショップ	8/10	ひがたらぼ	3名	市民他	5名	52,793
海苔すき体験	11/10	小祝漁港		市民他	不特定	
海苔すき体験	3/16	小祝漁港	9名	市民他	32名	
⑤ 自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信						
会報誌発行	4回	国内	8名	国内	1600名	686,297
ホームページ維持管理	通年	国内	1名	市民他	36,227アクセス	
生物データベース管理	通年	国内	2名	研究機関等	不特定	
勉強会参加	20回	国内	40名	会員	不特定	
⑥ 民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など						
TOTOリモデルフェア	3/8	TOTO工場内	5名	市民他	不特定	272,477
野依新池ベッコウトンボ保全作業	11/17	野依地区	16名	行政・市民	不特定	
OABつながり実感プロジェクト	7/21	中津市内	8名	市民他	13名	
野依新池・植野池保全助言	5回	野依地区	5名	行政・団体	不特定	
豊かな海づくり大会(大分会場)	11/9,10	大分市	18名	行政・市民	不特定	
中津市お魚感謝デイ	11/10	小祝	13名	行政・市民	不特定	
生物多様性おおい県戦略策定会議	1回	大分市	1名	行政・市民	不特定	
中津市環境審議会	1回	中津市役所	1名	行政・市民	不特定	
中津市下水道会議	1回	中津市役所	1名	行政・市民	不特定	
大分県うつくし作戦推進県民会議	1回	大分市	1名	行政・市民	不特定	
大分県海ごみ会議	1回	大分市	1名	行政・市民	不特定	
大分県グリーンアップ大分県民会議	1回	大分市	1名	行政・市民	不特定	
大分県うつくし作戦推進県民会議	1回	宇佐市	1名	行政・市民	不特定	
NPO交流会	1回	宇佐市	1名	行政・市民	不特定	
河川協力団体	通年	中津市他	3名	行政・市民	不特定	
アンケート協力(主なもの)	5回	ひがたらぼ	5名	行政・市民	不特定	
学校ヒアリング協力	12回	ひがたらぼ	12名	学校	不特定	
団体ヒアリング協力	7回	ひがたらぼ	7名	団体	不特定	
五十石川連携ほか	通年	中津市内	3名	市民他	不特定	
中津市環境ポスター・標語審査	1回	中津市役所	1名	行政・市民	不特定	
海岸事業に関する検討	通年	中津市内	2名	行政・市民	不特定	
ベッコウトンボ 保全に関する検討	通年	中津市内	1名	行政・市民	不特定	
⑦ 持続可能な社会を追求するためのその他の活動						
保全の枠組み指定に関する活動	通年	中津市内	1名	行政・市民	不特定	895,061
メンバーズデイ	10/14	東浜	3名	会員	20名	
「ひがたらぼ」運営	通年	ひがたらぼ	2名	行政・市民	不特定	
NPO基盤整備	通年	ひがたらぼ	5名	行政・市民	不特定	
商品(カブトガニサブレ・海苔他)販売	通年	中津市・外	2名	行政・市民	不特定	
ガタガタ広場水道設備運営	通年	大新田	2名	行政・市民	不特定	